

ガザ人道財団 - イスラエルのジェノサイド殺戮マシンの歯車

イスラエルのガザにおける政策 - 特にガザ人道財団（GHF）の援助配布地点の運営と2025年7月12日の海上アクセス禁止 - は、パレスチナの民間人に対する組織的な攻撃を構成し、明確な非難を求めるものです。これらの行動は、国際人道法（IHL）の核心的な原則を侵害し、人道援助を武器化し、絶望的なパレスチナ人をGHFの拠点で命をかけたロシアンルーレットに強制しています。過酷な夏の真っ只中に課された海上禁止は、民間人から食料、救援、尊厳を奪い、彼らを死や四肢切断の危険にさらす致命的な援助地点へと追いやります。これらの政策の累積的効果は、イスラエルの当局者による明示的な声明とともに、意図だけでなく、ジェノサイドの法的定義を満たす調整された戦略を明らかにしています。

イスラエルの国際法違反

ガザにおけるイスラエルの行動は、ジュネーブ条約、慣習国際法、多国間条約に定められた国際人道法および人権法をあからさまに違反しています：

1. 区別の原則の違反

GHFの援助配布地点を軍事避難区域内またはその近く - 例えばネツァリム検問所やラファの一部 - に設置することで、イスラエルはジュネーブ条約追加議定書Iの第48条に定められた民間人と戦闘員の区別という基本原則を無視しています。国連人権事務所は、2025年5月末以降、援助地点付近で798人の死亡を報告し、そのうち少なくとも615人がGHFの拠点に直接関連しています（ロイター、2025年7月11日）。IDFの人員はこれらの群衆に定期的に発砲し、民間人を意図的に危険にさらしていることを確認しています。

2. 集団的懲罰

2023年10月以来強化されたガザの封鎖は、2025年7月12日の海上アクセス禁止によってさらに強制され、ジュネーブ条約第四条約第33条に違反する集団的懲罰を禁止しています。漁業はガザで何世代にもわたり重要な食料源でした。漁業だけでなく、猛暑の中での水泳を禁止することで - 破壊された家屋、乏しい水、電力の不在の中で - イスラエルは占領国としての法的義務に違反して住民に苦しみを課しています。

3. 恣意的な生命の剥奪

水泳者や漁師に対する即時射殺命令で執行される海上禁止は、生命の権利を保証する市民的小および政治的小権利に関する国際規約（ICCPR）第6条の明確な違反を構成します。GHFの援助地点でのIDFの射撃と組み合わせ、これらの行動はローマ規程に基づく人道に対する罪に相当する恣意的な処刑のパターンを示しています。

4. 人道援助の武器化

2025年初頭に米国とイスラエルの共同イニシアチブの下で設立され、IDFのセキュリティと米国の民間請負業者によって運営されるGHFは、中立性、公平性、独立性という人道原則を損ないません。アムネスティ・インターナショナルの2025年5月29日の声明は、GHFを「非合法かつ非人道的」と非難し、占領された住民の福祉を確保するイスラエルの義務に違反していると指摘しました。安全な援助へのアクセスを提供する代わりに、GHFは民間人を致命的な暴力にさらし、人道救援を戦争の道具に変えています。

これらの行動は、1948年ジェノサイド条約の第II条(c)に直接違反する「人々の物理的破壊をもたらすように計算された生活条件を作り出す」戦略の一部を形成しています。

ジェノサイドの意図：戦争の背後にある言葉

ジェノサイドの法的基準には、特定の意図の要件が含まれます。イスラエルの政治および軍事指導者は、この意図を明確な言葉で繰り返し表明しています。国防相ヨアヴ・ガラントはパレスチナ人を「人間の動物」と形容し、遺産相アミチャイ・エリアフはガザへの原子爆弾の投下を提案しました。ベンヤミン・ネタニヤフ首相は、歴史的に完全な絶滅の命令と解釈される「アマレクを思い出す」という聖書の命令を引用しました。

財務相ベザレル・スモトリッチは「ガザに小麦一粒も届くべきではない」と宣言し、アイザック・ヘルツォグ大統領は民間人の無垢を否定し、集団的な罪を主張しました。教育相ヨアヴ・キシシュは率直に「彼らは絶滅させる必要がある」と述べました。IDFの将軍やクネセト議員の声明は、このジェノサイドのレトリックを反映し、ある副議長は「ガザを地球上から消し去る」と呼び、別の者は「ガザを容赦なく平らにする」と促しました。

これらの声明は異常ではありません - それらは国家政策を反映しています。年々、エルサレムの旗の行進は「アラブに死を」という叫び声で響き合い、イスラエル国家の核心にある排除主義の文化を強調しています。非人間的な言葉と民間人の生活を組織的に破壊する政策の融合は、ガザにおけるイスラエルの行動の背後にあるジェノサイドの意図を明らかにしています。

GHF援助配布地点での最も血なまぐさい日々

ガザ人道財団の配布地点は殺戮の場と化しています。2025年5月末以降の最も血なまぐさい日々には以下が含まれます：

- **2025年6月3日**：102人死亡、490人負傷
- **2025年6月6日**：110人死亡、583人負傷
- **2025年6月8日**：125人死亡、736人負傷
- **2025年6月10日**：163人死亡、1,495人負傷
- **2025年6月11日**：223人死亡、1,858人負傷
- **2025年6月12日**：245人死亡、2,152人負傷

これらの事件は、ジャーナリストや医療スタッフによって裏付けられ、援助のために集まった民間人に対する標的を絞った攻撃の繰り返しのパターンを示しています。死者数の増加は、人

道空間の意図的な軍事化の直接的な結果です。

ガザの崩壊する医療システム：病院が標的にされ、医薬品が遮断

GHFの拠点やガザ全域で民間人が負傷する中、彼らは病院で避難所を見つけることができません - なぜならイスラエルが**すべての病院**を爆撃し、損壊したからです。ガザの医療インフラは組織的に標的にされ、手術室が瓦礫と化し、集中治療室が破壊され、医師、看護師、患者が殺されています。世界保健機関はこれらの攻撃を戦争犯罪として非難しています。

封鎖により、麻酔薬、鎮痛剤、抗生物質などの必須医薬品が利用できません。医師はしばしば鎮静剤や麻酔なしで四肢切断、帝王切開、命を救う手術を余儀なくされています。この残酷さは付随的な被害ではありません - それは計画の一部です。援助地点で民間人を負傷させ、その後治療を拒否することは、ガザの人口をあらゆる手段で排除するというイスラエルのより広範なジェノサイドの目的に役立ちます。

民間人に発砲するよう命じられた兵士：法と良心の違反

2025年6月27日にハアレツが発表した衝撃的な暴露で、複数のイスラエル兵が、GHFの援助配布地点に集まった非武装のパレスチナ人に発砲するよう明確に命じられたと証言しました。これらの証言は、生存者やジャーナリストが長年報告してきたことを確認しています：食料や水を平和的に並んでいた民間人が意図的に標的にされ、交差火に巻き込まれたわけではありません。ある将校は現場を「殺戮場」と形容し、生きている弾薬が自己防衛ではなく、群衆を力で解散させるために使用されたことを認めました。この計算された殺人の政策は、国際法と軍事倫理の両方に違反しています。

第二次世界大戦の残虐行為に続くニュルンベルク裁判は、「命令に従っただけ」というのが戦争犯罪の弁護にならないという前例を確立しました。兵士は違法な行為に対して個人的に責任を負い、特に命令が明らかに違法な場合にそうです。この原則は、イスラエルの兵士が違法な命令に従うだけでなく、それを拒否する**権利**だけでなく**義務**を持つと確認するIDF自身の倫理規定に定められています。非武装の民間人 - 特に人道援助を求める者 - に実弾を発射することはグレーゾーンではありません：それは戦争犯罪です。これらの命令に従った兵士、それを発した司令官、そしてこの政策を可能にした国家はすべて責任を負わなければなりません。道徳的責任は外部委託できません。また、食料、水、尊厳を奪われた人々の廃墟の下に埋もれることもできません。

犠牲者の証言：飢えながら撃たれた

ここで、私の親しい友人、ガザの若い住民、わずか20歳の個人的な話を共有したいと思います。彼は2024年のイスラエルの空爆で家族全員を失いました。それ以来、彼は廃墟の中で一人暮らし、食料を探し、トラウマに眠りながら歩いています。2025年7月初旬、彼は4日間完全に何も食べていませんでした。彼の手は飢えで震え、視界はぼやけ、猛暑が頭上で燃え盛る中、

息が喘ぐようでした。飢餓が彼の体をむしばんでいました。彼には選択肢がありませんでした。彼は - 本当によろめきながら - ネットアリのGHF援助地点に向かって歩きました。それは彼の最後の希望でした。

到着したとき、彼は同じく絶望的な何千人もの人々に囲まれていました。突然、警告なしに、イスラエル軍が発砲しました。弾丸が群衆を切り裂きました。彼は腕に1発、背中にまた1発撃たれました。3発目の弾丸が太ももを貫き、4発目が背骨の一部を粉砕しました。彼は砂の中に倒れ、麻痺し、血を流し、叫び声に囲まれました。救急車はありませんでした。担架もありません。医者もいませんでした。知らない人々 - 彼を置き去りにすることを拒否した他のパレスチナ人 - の純粋な勇気だけがありました。彼らは再び標的にされる脅威の下、徒歩で彼を最も近い機能する病院まで運びました。彼は指を失いました。彼は二度と歩けないかもしれません。しかし、彼は生き延びました。そして何のために？食べるために。

海上禁止がGHFへの依存を強制

2025年7月12日の海上アクセス禁止は、ガザの最後の独立した食料源を排除しました。漁業と水泳を死の脅威の下で犯罪化することで、イスラエルはパレスチナ人の主体性を奪い、彼らを唯一残された選択肢であるGHFの拠点へと追いやりました。国境なき医師団は、ほとんど日陰や水のない耐え難い夏に執行されたこの禁止が、脱水症、栄養失調、絶望を悪化させたと報告しました（MSF、2025年7月）。この政策はパレスチナ人を致命的な援助の罠に誘導し - 命を救う代替案を否定しながら、死のゾーンを構築しています。

イスラエルのジェノサイド殺戮マシンの歯車としてのGHF

ガザ人道財団は中立的な援助提供者ではありません - それはジェノサイド殺戮マシンの歯車です。その構造は、救援の名目で民間人が最大の危険にさらされることを保証します。海上禁止、援助の軍事化、配布地点の組織的な標的化は、一貫した戦略に結びついています：ガザの民間人口を全体または部分的に破壊することです。

国連の援助地点での798人の死者数は、日々増加し、さらに数万人の負傷者、トラウマを受けた者、避難民に匹敵します。IDFの監督と米国の支援の下で運営されるGHFの活動は、人道に対する罪に共謀しています。それは人道的な言葉に隠されたジェノサイドを可能にします。

結論

ガザにおけるイスラエルの行動 - GHFを通じて、海上禁止、完全な封鎖、ガザの医療システムの組織的な破壊を通じて - は道徳的に非難すべきだけでなく、法的に弁護できません。これらの政策は、国際法、人道規範、人間の尊厳の基本原則に違反しています。ガザ人道財団は、救援を提供する代わりに、絶滅のメカニズムとして機能します。7月12日の海上禁止は、民間人に飢餓が軍事化された援助地点でのほぼ確実な死の選択を強めます。病院の破壊と医薬品の差し止めは苦しみを増幅します。

世界は行動しなければなりません。 GHFは解体されなければなりません。海上禁止は解除されなければなりません。ガザの病院は再建され、補給されなければなりません。そして、イスラエルはそのジェノサイドキャンペーンに対して責任を負わなければなりません。人々の生存と国際法の信頼性が危機に瀕しています。